

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式)

3 2回目評価

学校名(京都市立洛西中学校)

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価	
						評価日	平成27年2月16日	評価日	平成27年2月25日
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	基礎的・基本的学習内容の定着と徹底 わかる授業の実践と教科指導力の向上 家庭学習の習慣化	◆朝学習の充実 ◆定期テスト前の学習会 ◆校内及び小中合同での研究授業・研究協議の実施 ◆継続した宿題の実施(週末プリントも含む)	朝学習の取組状況 学習会への参加状況 ①「学校での授業はわかりやすい」 ②「授業に集中して取り組んでいる」 ③「学習確認プログラム・全国学力調査の結果」 ①「宿題はきちんとできている」 ②「宿題はきちんとできている」 ③「学校のものを大切に扱っている」 ④「宿題はきちんとできている」 ⑤「宿題はきちんとできている」	⇒	学プロの結果を見比べると、3年生は回を追うごとに全市との正答率の差が縮まり、3年間で肩を並べた。2年生も10月実施分までは3年同様差が縮まっていたが、2月実施分は下がった。1年生も全市平均と-3.5ポイント差がある。朝学習や授業は比較的落ち着いて取り組めてきたが、家庭学習には課題がある。	学力面ではある一定の成果は見られるが、コミュニケーションに課題があり、言語活動を充実させる取組が必要である。引き続き、小・中学校が連携して取り組んでいきたい。 また、朝学習の確認テストや授業においては学習した内容の演習問題や反復練習の徹底が必要だと考える。 なお、家庭学習については、習慣化が身につくよう宿題の出し方	⇒	学習面についてのご意見はとくになかったが、「生徒たちが落ち着いて将来を見据え、進路を考えてほしい」という感想をいただいた。 2年生の取組報告の中で、生き方探究・チャレンジ体験を柱において、職業についての調べ学習、行きたい職場を決めるための面接の実施、職場体験への参加等を通じて、将来の進路を考えさせる取組をしていることを伝えた。
2	豊かな心	規範意識の向上 自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成 豊かな心の育成	◆生活確立週間等の実施 ◆非行防止教室・ケータイ教室等の実施 ◆心の居場所のある学級・学年づくり ◆生徒による学校行事の取組 ◆あいさつ運動 ◆福祉体験・職場体験等の実施 ◆道徳教育の充実	①「学校のきまりを守っている」 ②「掃除をきちんとしている」 ③「学校のもの大切に扱っている」 ④「学校生活は楽しく充実している」 ⑤「学級のみんなと仲良く過ごしている」 ⑥「行事を終えるまで頑張る」 ⑦「学校ではあいさつがきちんとできている」 ⑧「学校ではあいさつがきちんとできている」 ⑨「学校ではあいさつがきちんとできている」 ⑩「学校ではあいさつがきちんとできている」	⇒	規範意識に関しては、数値を見る限りでは規範意識が概ねあると判断できるが、学校でのようすを見ると、数値ほど実践できているとは考えにくい。全国調査の結果からもそれは見て取れる。ただし、後半あいさつは徐々にできるようになってきた。 実践が伴って規範意識が向上する取組が今後必要である。そのためには生徒会活動の活性化が重要となる。	「目標や夢がある。大体ある。自分には良いところがあり、自信を持って生活している」という生徒は共に65%弱(大体ある・いるも含めて)と微増したが、結果としてはかなり低い。自己有用感や自己肯定感を育てる取組が引き続き必要である。普段の取組(授業や学校行事他)の中で「ほめる」ことと「達成感」を味わわせることが大切であり、自己有用感や自己肯定感が高まれば、規範意識の向上にも繋がると考える。また、「あいさつ」は豊かな人間関係を築くための大切なツールである。あいさつをする生徒は増えてきたが、今後はこちらから働きかけていきたい。	⇒	自治会も人手不足で、地域清掃も自分たちの周辺がやっとである。学校周辺はもとより、学区内の美化に協力をお願いしたい。 ご意見ではないが、「あいさつをしてくれる。返してくれる生徒は増えてきた。」「すぐくキャンチャをしてる生徒は見かけなくなった」との感想をいただいた。 学校教育において教育環境を整えるということはとても大切なことで、校内や周辺地域をきれいにすること、奉仕活動の重要性は感じていること、協力していきたいことは伝えた。
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 身体や生命を大切にすることの取組の充実	◆早寝・早起き・朝ごはん ◆保健だより等による啓発 ◆性教育の実施 ◆健康・安全・防災教育の実施(薬物乱用防止教室・防煙教室含む)	①「遅くとも12時には寝ている」 ②「朝食は毎日食べている」 ③「保健だよりの発行回数」 ④「取組状況と生徒のようす」 ⑤「取組状況と生徒のようす」 ⑥「取組状況と生徒のようす」 ⑦「取組状況と生徒のようす」 ⑧「取組状況と生徒のようす」 ⑨「取組状況と生徒のようす」 ⑩「取組状況と生徒のようす」	⇒	朝食はほとんどの生徒が大体はとれているが、昼食のようすを見てみると、給食を残す生徒が結構見られる。食教育に関する啓発が必要だと感じる。 また、平日に2時間以上テレビを見たり、ゲームで遊んだり、ケータイ・スマホを使う生徒が半分以上あり、就寝時間が遅くなる原因の一つとなっている。食教育や健康教育の取組も必要である。	基本的生活習慣の確立には、地道な啓発活動と家庭との連携が必要である。 今後、PTAの会議や学校だより、ホームページ等でも啓発していきたい。また、授業や学級の時間等で、生徒に啓発していくことも必要である。	⇒	とくにご意見はなかった。 声かけをしていただけるとありがたい。何かあれば学校に連絡していただきたい。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 地域の教育力の活用 情報発信の充実	◆小中が連携した取組の実施(主任会議・授業研究・研修会・オファンスクール・部活動交流他) ◆地域ボランティアによる「放課後学習会・土曜スクール」 ◆「学校を花いっぱいにする運動」の実施 ◆積極的なホームページの更新 ◆学校だよりの発行	小中主任会(5回)、授業研修(10～1月)、小中部活動交流会(11月)実施。取組は「よかった」と感じる児童・生徒、教職員が多かった。 取組の実施状況と生徒やボランティア・PTAの参加状況 ホームページのアクセス数 学校だよりの発行回数	⇒	小中一貫教育の取組を通じて、小中・小の連携が深まっていると感じ、連携を好意的に捉えている教職員がかなり増えてきた。児童・生徒の満足度も高い。 地域の方のお力をお借りし、学力向上と環境美化に取り組んでいる。放課後学習・土曜スクールでは真面目に取り組むことで成果が見られ、花いっぱい運動では、学校がきれいだというお声を耳にすることが多い。 ホームページを可能な限り毎日発信すること、後半同じ時期で昨年度と比べてアクセス数が1.8倍増え、情報発信には成果が見られた。	小中一貫教育では、「言語活動の充実」と「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」を重点目標に掲げ、目標達成のための具体的な取組を小中・小で話し合い、実践している。振り返り・点検をしながら、今後も引き続き継続して取り組みたい。 地域の教育力の活用では、協力していただける地域ボランティアの方を探すことが重要である。また、放課後学習会等では生徒数の確保が必要であり、担任や家庭との連携が不可欠である。 ホームページについては、引き続きリアルタイムな情報発信とアクセス数を増やすための工夫(広報等)を行いたい。	⇒	とくにご意見はなかった。 「豊かな心」の欄に出たご意見(校区内の環境美化への協力依頼)に関連して、本校の取組の1つにある「小中高合同地域一斉清掃」がここ3年雨天中止となっており、予備日の設定等の工夫を検討していただくことを伝えた。

4 総括・次年度の課題

いずれ社会に出て自立していかなければならない生徒に、社会人として必要なマナーや自分の将来を考えさせる機会を持つことは大切であると感じている。今年度の取組を踏まえ、次年度もさらに広げ、そういう機会をつくっていく。

アンケートの集計結果から見てくる本校生徒の実態や課題を、小・中学校が共有し、課題解決に向けて同じ歩調で取組が進められるよう、次年度も小中連携に取り組んでいきたい。そのために、小・中学校でアンケート項目を揃えるなどの工夫が必要ではないかと思っている。次年度に向けて検討していきたい。

また、コミュニケーションが上手とれない生徒が多い実態や「夢や目標がある」、「自分の良さや自分への自信がある」と答える生徒が少ない実態が見られる中、小・中学校が共通のテーマで取り組んでいる「コミュニケーション能力を育成するための「言語活動の充実」」、「自己有用感や自己肯定感・自尊感情の醸成」は、各校での取組の方向性を示す点で有効であったと感じている。次年度も継続して取り組む必要がある。